

# 日本経済新聞

土曜版

NIKKEI  
2020年11月21日 土

33 千葉・首都圏経済

【第三種郵便物認可】

ちば  
The People



船橋市の活性化に尽力

My Funa ふなばし代表 山崎 健太朗さん

千葉県船橋市で人気の飲食店や活躍する人物など地域の旬の話題を伝える無料月刊誌「My Funa」。公共施設や病院、コンビニなど2000ヵ所で月2万部が配られている。育て上げたのは発行元の「My Funa」(同市)代表の山崎健太郎(44)だ。

20歳の時、親友を交通事故で突然亡くし、自由に生きよう決意した。大学卒

## アイデア多彩奔走続く

業後に2社で働いて経験を積み、29歳で地元・船橋に「My Funa」をテーマに企画案を立て、広告代理店を立ち上げた。それを何度も練り、2008年を何度も練り、2008年當業回りをしながら、地域の情報を集めた媒体があれば良いのだと考えた。もともとあったタウン誌も同時に開設し、ネット上掛け作りに奔走する。10月は当時休刊中。「知つても連動してイベント紹介

などを毎日配信した。走り始めた矢先にリーマン・ショックに襲われ、本業の広告業は受注の激減で倒産の危機に陥った。焦る自らを尻目に、地元に根ざした事業者はほぼ影響を受けないことに気づいた。「地域で産業を育て、自立することが大事」。誌

面を飛び出し、福祉人材のマッチングや市地方卸売市場の活性化イベントなどにマッチングや市地方卸売市場の活性化イベントなどに取り組む。地域活性化を志す仲間も増えてきた。「ネットワークを作り、各地域にノウハウを伝えてい

た食べ歩きイベントではプロックチェーン(分散型台帳)を活用した電子チケットを発行。時間が過ぎるほど使える金額が減る仕組みを取り入れ、早く利用してもらつて飲食店に還元されるようにした。地元企業が社員の福利厚生に地域の飲食店や宿泊施設を利用できるサービスも提供する。

アイデアや行動力が注され、船橋以外でも街づくりのアドバイザーなどを任命する。地域活性化を志す仲間も増えてきた。「ネットワークを作り、各地域にノウハウを伝えていけたら」。情熱の向く先は県全域に広がっている。

(貴田畠祐子)  
〔敬称略〕

千葉

